

回	年月日	活動内容	備考
	5月25日	中止	
1	7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・自粛期間中の各機関の困りごとの共有 ・年間計画の確認 	
2	9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長、副部会長の選出 ・多様な就労のあり方と必要な支援等についての検討 ・情報交換 他 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の就労継続支援B型事業所等へ、コロナ禍での利用者支援についての困りごと調査（アンケート等） 			
3	11月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果について意見交換。 ・情報交換 他 	
4	2021年 1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・書面開催 	
5	2月24日 (臨時開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・就労アセスメントについて 	
6	3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・年間のまとめ 	

令和3年1月就労支援部会の報告（意見の抜粋）

○緊急事態宣言の再発令に伴い、就職活動及び就労状況にどう対応しているか

- ・高1、高2の実習ができなくなってしまった。急遽、校内での就業体験を実施することとなった。
- ・ハローワークや職業訓練校などは通常通り開いているので助かっているが、求人が減少しており、苦慮している。
- ・就労B型の作業では、取引企業からの受注量は減ってしまっている。
- ・半就労の利用者についてはモチベーションがある程度確保できていた。

○生きがいのある多様な働き方とその支援について

- ・利用者からは、本当に職場の役に立っているのか不安、やりがいを感じられないなどの声が聞かれる。
- ・企業側は、個々に合わせた仕事を提供しているが、そのさじ加減が難しいと考える。
- ・利用者の特性を把握し、職員が企業やスーパー、施設に利用者を紹介し、半就労の利点を相手側に伝えるなど、採用してもらえよう働きかけることが支援者に求められる事だと思う。
- ・身体障害の場合、ADLの自立の条件が、健常者同様に社会に出ていけるか、または在宅や福祉サービスを受けて生活していかなければいけないか、という大きな障害の壁になっているように感じる。
- ・コロナ禍でニーズ上昇分野との連携、自主生産品のネット販売の開始、通勤時間帯の駅前販売、スーパー・ドラッグストア・ガソリンスタンド等生活関連店舗での販売などができたらよい。

令和3年2月就労支援部会の報告（意見の抜粋）

○就労アセスメントの拡大について

- ・アセスメントは本人の客観的な能力評価を行い、それを計画相談に伝え、その先の支援にいかしてもらうためのもの。
- ・市で一度客観的にアセスメントをするというのは心強い。しかし、本人にとってはサービスの利用前にアセスメントの期間が設定されてしまう面もある。
- ・在校生で就労A型や就労移行を目指す人にはアセスメントは行っていない。B型を希望する生徒には行っているが、時期として高校3年生時でよいのか。
- ・高校生についてはもっと早めにアセスメントができることが望ましい。
- ・B型から企業就労した例もある。卒業すぐは難しかったが、その後成長し、就労につながった。企業側にもニーズはある。
- ・B型からまずは就労移行、あるいは半就労などの体験をし、自信や力をつけてから外の選択肢を考えるとよいのでは。